

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 村田 隆

1 教育委員会

守谷市教育委員会は、守谷市民憲章5項目を基に「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」をテーマにして、1 思考力、想像力に富み、正しく判断して実行する人間の育成。2 個性を伸ばし、豊かな心をそなえた、基礎的・基本的な知識をしっかりと身に付けた人間の育成。3 生涯にわたって、知識や教養を磨き、社会の発展に貢献する人間の育成。4 家庭・地域の教育力を高め、互いに助け合い、学び合う人間の育成の4項目を挙げられています。そして、社会教育、学校教育に分かれます。特に「守谷の子供をより良く育むために」との思いと願いを込め、スタートされた守谷市保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」も既に5年経過しました。年々、内外から高い評価を受けていることは多くの方が周知するところであります。

守谷市は平成27年4月1日に「新教育長」を任命し、教育委員会の運営体制とし、市長と教育委員会が地域教育の諸課題などを共有するため総合教育会議を開催し教育行政推進に努められています。本年も教育委員会の会議が定例会12回、臨時会3回、協議会3回開催されています。各会議では34件について審議され各議事録を拝見しても大きな問題もなく慎重着実円滑に進められたことが伺えます。

また、定例会毎に市内小中学校及び教育委員会事務局各課の状況報告等受けられ、問題の顕在化早期発見解決への糸口とされているように伺えます。昨今、マスメディアから大きく報道される他市他県のいじめ事件などを耳にすることがありますが、「明日は我が身」の心構えで引き締めて当たっていただきたいものです。教育委員会会議以外の活動状況では、学校訪問、各種行事などにも参加され、より現場把握に努められています。できれば学校訪問の日数増、最近多くなっている諸問題などを研修会に加えられると更に良いと思います。また、各小中学校の入学式・卒業式には、教育委員会管理職あるいは教育委員が列席されます。祝辞が全て市長代読文面になっていますが、ご本人からのコメントも多く入れられることが児童生徒にも良い思い出に残ると思います。

平成29年度決算概要（歳出見込）では、教育委員会予算は全体歳出総額の12.4%とあります。前期より減額となっていますが、守谷市は以前から「教育最優先」の方針が掲げられており、いろいろな諸課題に対応する基盤ともなるため歳出額には注視したいものです。以上のことから一部要望等を加えましたが、教育委員会は确实着実にしっかり諸問題に丁寧に取り組まれ、解決を図られていると高く評価します。

今後、新しい風、価値観の多様性のため難しい諸課題等が予測されますが、次代を担う子供のため市民のため柔軟な体制づくりと諸施策で着実な解決発展の道へつなげていただき、市民とともに歩んでいただきたいと思います。

2 学校教育課・指導室事業

(1) 教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な学校環境の下で学習でき、登下校時の安全確保や不審者侵入に対す

る対応等、学校の危機管理体制の確立に対しての点検評価をいたします。まず、愛宕中学校、御所ヶ丘中学校格技場天井改修工事が夏休み中に完了し、2学期から授業や部活動に使用されています。事業費の約2割を学校施設環境改善交付金が充てられています。御所ヶ丘中学校屋内運動場改修工事実施設計業務については、障がいのある生徒にも配慮した多目的トイレ設置の設計を実施しています。

市内小中学校の机の天板を全てA4判対応のものに交換されました。教科書副教材等の大判化に伴い、学習し易い環境になりました。この事業費の7/10は、いばらき木づかい環境整備費補助金を利用されています。

既に市内小中学校の校舎におけるトイレ便器洋式化と床乾式化は完了し、今後、屋内運動場トイレ改修も計画的に進められる予定です。いずれにしても大規模改修等の学習環境整備には莫大な経費が掛かるため、補助金等を最大限利用して進められます。他には市内小中学校校庭の高木が繁茂して日陰になっている住宅等がないか、チェックして定期的な剪定も考慮していただきたい。

通学路の安全点検と危機管理体制強化については、合同点検結果から17箇所の内14箇所は安全対策処置済み。残り3箇所の内2箇所は横断歩道設置の順番待ち。残り1箇所は近々処置予定とのことです。いずれにしても最悪のケースにならぬよう早急な対策が必要です。災害時の小中学校児童生徒引渡し訓練は、常に危機感を持って望んでいかねばなりません。いつ起こるか分からない災害への心構えが求められています。昨年3月（2017年）小学校学習指導要領改定で防災教育に取り組み、街全体が変わった事例もあります。

小中学校パソコン事業ではふるさと納税を利用して、児童コンピュータ整備数（児童数/台数）目標平成33年度1.0に対し平成29年度3.1。生徒コンピュータ整備数（生徒数/台数）目標平成33年度1.0に対し中学校は2.9までになっています。今一步の段階です。テスト導入の校務支援システムは今後、先生方の事務効率化になるよう期待します。

登下校時の安全対策、不審者侵入対応については、自転車の安全な乗り方教室等も含め、安全対策が必要です。児童生徒の登下校時の事故を無くすため、現在も行われています教育委員会、PTA関係者、小学校青色パト、地域の方々と協力して登下校時の見守り等の継続が求められます。以上のように取り組まれた課題が円滑な運営と速い対応で成果を出されており、評価いたします。

（2）学校教育プラン

① ステップアッププラン（確かな学力の育成）

「児童生徒に確かな学力を身に付けさせます」項目では、「平成29年度学校における成果と課題」チェック表を拝見して、かなりの成果が各学校で報告されていることにこの活動が徐々に成果を上げていると実感しました。

例えば88%の児童が毎日家庭学習をがんばっていると回答、ICT機器を使った授業で楽しいと感じている児童の肯定率98.7%、自学ノート提出率93.7%など他にもいろいろありますが、「きらめきプロジェクト推進」、「サタデー学習支援教室の実施」。そして、「非常勤講師（学習支援ティーチャーなど）の配置」などが徐々に成果が出ている

と確信します。「茨城県学力診断テスト」の結果からも十分に学力は定着しています。

サタデー学習塾では、土曜日計30回実施され「授業が分かるようになった」。中でも「計算ができるようになった」と回答した児童が6割を越えました。徐々に成果が出ています。学習指導要領を習得することは最低ラインです。伸び代の多い児童生徒をどこまで伸ばせるか？一方その基礎基本すら十分習得できない児童生徒をいかに引き上げるかは教員の腕に掛かっています。それらの個人差への対応も丁寧に取り組むことが求められます。

学習支援ティーチャーは小学校に25名、中学校に8名、社会人TTを小学校に1名配置し、児童生徒の生活習慣や学習習慣の確立と学力向上が図れたと報告があります。やはり先生方の努力がそれぞれ現れた結果と思われます。以上のことから良い成果が次々報告されており、評価いたします。

② ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

「児童生徒が豊かな心を育み、良好な人間関係が築けるようにします」項目では、3つの取組（① きらめきプロジェクトの推進、② スクールカウンセラーの配置、③ 機動性・柔軟性のある守谷市総合教育支援センターの組織整備と支援策の充実）が実施されました。道徳教育はきらめきプロジェクトの重点のひとつであり、各小中学校では道徳教育の充実を目指して授業の充実に取り組まれています。市内の小中高校合同で「Mor i y aきらめきフォーラム」が開催され、SNSによるいじめ撲滅のためのスローガンを作成し、校内及び地域に周知し、いじめ問題に対する意識高揚が図られました。現在、各学校では児童生徒から自主的にいじめ問題を顕在化して、発生源を断とうとする運動があります。オレンジリボンを胸に付け、その意志表示は大変効果があると思えます。また、児童生徒間で相手が不快になる行動を慎む動きがあります。これらは小さいことのように思えますが、広く浸透していけば大変効果があると思えますので、一つの運動として広めていけば大変良いと考えます。基本的生活習慣の基盤となる「あいさつ」では、かなり、定着化が図られているようです。あいさつとお辞儀は別々にする。相手の目をしっかり見てしっかりしたあいさつの声、そうしたあいさつが望まれます。家庭、学校、地域で何時でも、事ある毎にあいさつができることが重要です。守谷市が勧める保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」の中でもあいさつ運動を積極的に取り上げられており、更に効果が出ると思います。

3名のスクールカウンセラーの相談実績が延べ293人、534回とあります。その内容は定かではないですが、カウンセラー1人当たりの負担がどれ程か分かりません。増員の検討も考えねばなりません。総合教育支援センターの機能が軌道に乗り始め、センターが学校と専門機関をつなぐ役割を果たしています。今後、相談件数の増加が予測されますので、できれば元気で意欲ある退職校長先生などがそのスタッフに加わっていただければ、より機能が発揮できると考えます。現在、不登校出現率が前期比小中学校ともやや高くなっています。また、いじめ件数も小中学校計で増加しています。その解消件数は微減、継続扱いは支援増です。不登校の背景には、児童生徒の情緒的混乱、家庭環境も含めた複合的な事由が考えられます。早期に対応して各家庭訪問、電話連絡等で、きめ細かな個別対応が重要です。これらは少しずつ成果が出

されており評価しますが、更に継続して大きな成果になるように期待します。

③ ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

「児童生徒の健やかな身体を育みます」項目では、「早寝早起き朝ごはんお手伝い」とかつて言われたことがあります。人間にとって大切な諺であります。このことを守らないといずれ体調不良になるのは明らかであります。児童生徒に懇々と言い、たくましい身体と精神を作ってほしいものです。かつて、家庭で親がしっかり教え、それを子供が守ってきたのですが、近年、家庭でしっかり教えることが少なくなり、学校でそのことを教えることになっています。給食時上手に箸を使っている人もいますが、中には変な使い方の人もいます。口にものが入っているのにぺらぺらおしゃべりしている人も見られます。① 食育指導の実施、② 体力の向上、いずれも人間として生きていくための基本であります。①は栄養教諭を講師に招き取り組まれています。食事のマナーや衛生面をしっかりと教育していけば立派な人間として通用するでしょう。また、お箸の上手な使い方、食べ方の作法食物についての知識などが身に付けば社会人になっても当然通用します。是非とも小学生で身に付けてほしいものです。

②の体力テストA+B達成率の推移は、小学校では、県平均を前期比若干下回っていますが、中学校では大幅に上回って喜ばしいことです。日々運動を取り入れた結果です。更に記録が伸びるよう業間休みや昼のロング休みを利用して運動してほしいものです。中学生部活動では適切な時間内活動で成果を期待します。以上のことから体力テストA+B結果では県平均を小中学校共僅差大幅アップの成果があり、十分評価できます。

④ ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

「国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施します」の項目では① キャリア教育の充実、② A L T（外国語指導助手）の活用、③ 教職員のI C T（情報通信技術）活用力の充実を挙げられました。①では中学2年生が職場体験学習を近隣会社事業所などで実体験しています。実社会で経験することは、机上でのものより刺激적であると思います。良い指導者の下での職場体験ができるようにしてあげたいものです。後日報告会などで情報活用力・表現力などが養うよう期待しています。

②では全小中学校にA L Tを配置し、小学1年生からA L Tによる外国語授業を実施しています。日常生活にも活用して、外国語に触れる機会が多くなっています。インタラクティブフォーラム県大会に3名の中学生が出場。スピーチコンテストでは全国大会へ出場しました。意識調査では「A L Tと話し活動することは楽しい」と答えた小学生（抽出）の割合は93.7%もありました。大変良い結果です。また、中学3年生で英検3級以上相当の英語力を有する生徒の割合は、全国平均40.7に対し51.1と大幅に上回っています。これらの結果からもA L T配置効果が出ていることが伺えます。③では2名のI C T支援員配置でI C T機器（タブレットや電子黒板等）活用の利便性が周知され、効果的活用で授業の改善が多く見られるようになりました。このように教員のI C Tを使った指導力がかなり向上してきています。A L T配置の効果的活用と合わせ授業の活性化が望めるようになっていきます。いずれも良い成果が報告されており評価します。

⑤ パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

「保護者や地域住民との連携が図られた学校を目指します」の項目では、① 地域社会への授業公開と積極的情報発信、② 地域人材の教育活動における有効活用を挙げておられます。「学校は地域と共に」とよく言われます。現在、ホームページが毎日更新され、最新情報が伝えられることは大変意義あることです。その中には地域の人が学校に何か協力できないか？の発端が生まれることがあります。例えば、図工、家庭科授業などは、専用室で行われます。多くの児童生徒相手にその授業を先生方だけでは対応できないことがあります。そのような時に地域の人が学習ボランティアで応援できれば、学校としても大変助かると思います。現在、地域には高齢でも元気な方々が大勢おられ、人員集め等に動いてくれるコーディネーターがその橋渡しをしてくださっています。正に人材活用になります。地域社会へ向けた授業公開を全校で実施されています、学校公開日も設定されておられるようです。また、メールマガジン配信システムにより不審者情報提供や連絡などに大変役立っているようです。他にも登下校の青色パトロール、ゲストティーチャーとして授業などに活躍していただいているようです。今後も児童生徒が、地域とふれあうこと（夏祭り、公民館まつりへの参加等）が多くなれば、地域の人々との交流が今後更に開かれた学校づくりとして教育効果が大きくなります。学校地域が協力して授業、地域活動などに多くの成果が報告されており、継続されることで更に良い成果が得られると思います。評価いたします。

3 給食センター事業

（１） 食事の正しいあり方の習得、好ましい人間関係の育成、栄養管理と健康増進、食のあり方について、教育の一環としての学校給食の実態の項目についての評価は、現在、安全安心で安定した学校給食が提供されています。平成29年度は、給食日数192日（2献立）1日当たり6,576食。この数字は現有設備での限度数字のようです。よく工夫しながら対応していただいていることに感心します。食材の栄養、献立の内容、郷土食などを紹介した「栄養指導資料」を各学校に配布（11回/年）し、献立表や食と健康についてなどを説明した「給食だより」をホームページに掲載（11回/年）するなど、教育の一環として取り組んで来られました。見学会54名（前年比30人減）試食会884名（前年比127人増）、給食費収納率、平成28年度99.93%と比較しますと、平成29年度99.95%（13校中9校100%）は更に良い数字です。食物アレルギーを持つ児童生徒には保護者に献立明細等を毎月配布後、保護者から喫食を判断するための「給食確認表」の提出をしていただき、保護者、学校、給食センターの情報共有を図っておられます。食数の増加対応のため釜の増設（2つ）、配送トラック1台増などで対応されました。食物アレルギーを持つ児童生徒にはしっかりと給食センター、学校、保護者の情報共有で事故防止に努められています。なお、児童生徒の完食率がどれくらいか気になるところです。

（２） 学校給食を安全・安定して供給するための徹底した衛生管理については、調理ドライ運用、衛生管理マニュアルに基づく食品取扱いの徹底で食中毒防止に努められています。また、自己健康及び自己衛生管理表などで調理業務従事者に対する衛生管理、施設内害虫防除も徹底されています。何れも事故防止の成果に結びついています。しかし、

建築後34年経過して、施設、設備の老朽化が問題です。今後の適切な対応が求められます。以上のことから、現有設備から給食数対応を丁寧に安全に行っておられることを高く評価します。

4 生涯学習事業

(1) 自主的サークル活動の支援と学習機会の提供

各公民館運営が、指定管理者制度に移行して数年が経過しています。年々サービスが安定しており、良い評判を多く耳にします。リタイアした方のサークル活動、シニアクラブなどに入会する人も増加しているようです。特に守谷市が推奨する「いきいきヘルス体操」などは、人気があるようです。その中でも女性の参加者が多く、なぜか男性が少ないのが気になります。各公民館利用が急増して部屋の確保が難しいこともあります。家に閉じこもることなく会合に参加して大いに語り合うことで健康が維持できるようです。例年公民館祭りを開催して、各サークル活動の成果を多くの方々に見ていただき喜び励みを感じる方々も多くなり、祭りの重要性が再認識しています。また、地域を巻き込み子供から高齢者まで一同に会し、触れ合える機会は大切なものです。各公民館の役割は果たしています。

(2) 生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援

市民がスポーツに親しみ健康に活動することは、大変良いことです。しかし、現在その場が極めて少ないのが現状です。近隣市では、既に市営スポーツ施設（アリーナ、体育館、プール、格技場など）が整い、あらゆるスポーツに触れて生き生きと活動しているようです。当市では、大きなスポーツイベントなどは、常総運動公園などを利用して活動の場とすることになっています。当面身近な現有設備でスポーツサークル等は楽しむことになります。

(3) 親しみを感じる芸術・文化の推進

当市の芸術祭の活動は、年々不活発になっているようです。中央公民館を会場にして各会議室通路などを利用して展示しています。しかし、展示スペースが狭く、制約が厳しく参加団体が年々減少しているのが現状です。来場者が来て良かった、楽しめたと思っていただける工夫が必要です。このままでは先細りするのではと危惧します。起死回生の対策が必要です。アーカスプロジェクトの活動は、市民の認知度が低いように思います。市民にもっと分かりやすいパフォーマンスがあってもいいのではと思います。毎年、しっかり予算が組まれています。学びの里へ市民が多く足を運べる方策を立てていただきたい。現在、作品展示等は市民ギャラリーを利用するのが多いです。利用料金の低額を望むサークルが多いです。

(4) 文化財を愛する心の育成

文化財を後世に伝えていくことは重要です。現在、もりや学びの里内に古文書等の保管室を設置したとのことです。以前から言われていますが、どこの市でも郷土資料館があります。そして、定期的にテーマを決めた展示会が催されています。現在、当市では、

中央公民館2階スペースに古代人の通年展示がされているだけです。独立した郷土資料館が必要と多くの人から声が出ています。

(5) 安心して遊べる場の提供

最近の傾向として共働きの家庭が増え、全体の児童数は増えていなくても、児童クラブの利用者が増える状況があります。放課後児童クラブ、放課後子ども教室各参加者を合わせると、おおよそ守谷市全小中学校生数全体の半数近くになるようです。それに伴って教室等が必要となります。今後、学校とよく相談して、増床ではなく特別教室などを利用する方法もひとつと考えます。なお、児童クラブでは土曜日、長期休業期間や学校休業日は、早朝から1年生から6年生を対象に実施されています。この長時間の過ごし方等もどのようなものか気になります。計画的に学習、運動、遊び、マナーなどで有意義に仲良く過ごしていることを期待します。

5 図書館事業

(1) いつでも気軽に気持ちよく利用できる図書館

① 市民の意向を反映した図書館運営

利用状況は、1日平均貸出者805人、年間の市民一人当たりの平均貸出冊数が14.71冊です。指定管理者導入後、開館日数や開館時間の拡大により利用しやすくなり利用者も増えたようです。しかし、レファレンスなど図書館の質が低下したとの意見もありました。その分野は司書資格者が対応すれば良かったと考えます。そして、通常の貸出し、返却業務のみ指定管理者の仕事にしているところもあります。利用した多くの市民からは以前（直営）と比べ評判が良いと言う声が多くあります。

② 多様な資料の収集・整理・保存

市民一人当たり500円の資料費により、図書資料16,474冊、視聴覚資料515点、雑誌337タイトル、新聞32種を収集できました。市民一人当たりの資料費は県内上位です。このことは市民サービスに貢献しています。

③ 市民との協働

図書館と市民ボランティアの活動がいろいろ活発に行われていますが指定管理者導入に伴い、ボランティアの一部との関係が希薄になりました。しかし、双方の関係改善に努め良好な関係性を回復しつつあります。今後とも良好な関係になってほしい。

(2) 図書館機能の強化とサービスの充実

① 図書館ネットワークの活用

図書館ネットワークの活用により、中央図書館及び公民館図書館において、利用者に対して公平な利用案内、各種情報提供及び貸出等のサービス提供ができます。これは市民にとって歓迎です。

② 子ども読書活動推進

各種アンケートで子ども読書活動の現状把握に努められ、各委員会、協議会を経て市民へのパブリックコメントを実施され図書館を直営にする結論が出されました。これらの文面からはよく分かりませんが、学校図書館との関係での判断と考えられます。今後、この判断が市民にとって良好であることを望みます。

(3) 施設・設備の安全

① 良好な施設環境の整備

施設は一定年（約 10 年）ごと大規模修繕工事を続けて、建屋の保守点検が保たれます。今後、定期的な修繕計画が必要です。

< 総 括 >

教育委員会全体の評価について

守谷市教育委員会は教育目標及び学校教育プランなど掲げられ、守谷市の子供たちのために様々な施策を展開してきました。平成 27 年 4 月 1 日から「教育長」を任命し、新制度による教育委員会の運営体制としました。また、市長と教育委員会が地域教育の課題やあるべき姿を共有するため総合教育会議を開催し、教育行政の推進に努めています。新体制がスタートして今期で 3 年が経過しました。「学校における成果と課題」にその成果が見られます。例を上げますと、88%の児童が毎日家庭学習を頑張っている。ICT 機器を使った授業が楽しいと感じている児童 98.7%，自学ノート提出率 93.7%，授業が分かる 95%。茨城県学力診断テスト結果から、小中学校とも十分に定着していると考えられます。中学 3 年生英検 3 級以上 70% 取得、また、学習に不安のある児童対象に始めた「サタデー学習塾」では年間 30 回実施して、半数近くの児童が「授業がわかるようになった」、「計算ができるようになった」が 6 割を越えました。

教育環境整備では全小中学校の机の天板 A 4 判対応のものに交換、中学校 2 校の格技場天井改修、児童生徒用コンピュータ整備の各費用を補助金、交付金、ふるさと納税を利用して対応しています。今後大規模改修費用についてもそのような費用対応を考えておられます。

いじめ問題は、近年多くは従来型（暴力など）からネット型（通信）に移行しています。そのため顕在化が難しくなっています。しかし、児童生徒側から自発的に早期顕在化する動きがあります。オレンジリボンを胸に付け、いじめ禁止宣言サインになっています。いじめは、犯罪です。暴力罪です。の認識をいろいろな時に伝えることも重要です。先生児童生徒が共に認識し合い、この犯罪行為を撲滅できる日が来ることを願います。

あいさつ運動が定着するよう学校で日々行われています。家庭教育社会教育でこの運動を徹底していないのが一因かも知れません。学校では「守谷しぐさ」などの教本もあり、分かりやすく説明してありますので多いに活用すべきです。最近、「マナーキッズ」運動があります。運動を通して教えていただいた方にその都度、あいさつとお辞儀のしぐさを教えています。お辞儀は小笠原流作法になっています。小さい時にこのあいさつを身に付けた人は、社会に出ても十分認められると思います。毎日朝食食べます 97%

です。全国学力診断テストで毎回トップ3の県は、分析の結果朝食を食べてくる、睡眠時間は8時間確保と報告されています。県を挙げて「早寝早起き朝ごはんお手伝い」を実践していると推察します。大いに参考にすべき事例です。

給食センターの施設設備老朽化に伴う不安があります。設備能力に余裕がないぐらいの給食数を毎日対応されています。早急な抜本策を立てることが必要です。

図書館を直営に戻すことが決められました。3年間指定管理の事業で多くの市民が利用しました。今後、直営判断が市民に良い結果になるよう期待します。

中央公民館ホール改修が平成31年度工事開始の情報がありました。既にこのホールは30数年経過しています。最小限の不具合箇所修理が予定されています。しかし、現在でも音楽家の声として、このホールでは音響効果に問題あり敬遠しているのが現状です。一方、新たに守谷市としての市民文化会館建設の要望が出ています。

以上、教育委員会は、教育目標に対し各部門とも着実に成果を出され十分評価できると確信します。